

お客様各位

株式会社セゾン情報システムズ

HULFT 事業部

HULFT Series 製品における Java の脆弱性(CVE-2015-2590 等)に対する報告

HULFT Series 製品における Oracle Java の脆弱性(CVE-2015-2590 等)に対する報告をご案内いたします。

- 記 -

## 1. 脆弱性の内容

Oracle Java において、脆弱性が公表されました (CVE-2015-2590 等)。この脆弱性を悪用された場合、攻撃者によってコンピュータを制御される可能性があります。

<Oracle Java の脆弱性に関する情報>

<http://www.ipa.go.jp/security/ciadr/vul/20150715-jre.html>

## 2. 調査状況

上記脆弱性について HULFT Series 製品における影響をご案内いたします。

<HULFT Series 製品 調査状況 - 2015 年 8 月 21 日 18:00 時点>

製品名	調査状況
HULFT	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT BB	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT-Script	現在調査中です。
HULFT-HUB	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT-DataMagic	影響ありません。Java を使用していません。
HULFT-WebFT	下記 7 点の脆弱性が影響します。 Oracle Java をご利用のお客様は、ご利用の Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※)  CVE-2015-4748、CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-4749、CVE-2015-4000、 CVE-2015-2808、CVE-2015-2659
HULFT-WebConnect	下記 5 点の脆弱性が影響します。 Agent 環境にて Oracle Java をご利用のお客様は、ご利用の Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※)  CVE-2015-4748、CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-4749、CVE-2015-2659
HDC-EDI Suite	<HDC-EDI Base> ・サーバサイドに下記 7 点の脆弱性が影響します。 Oracle Java をご利用のお客様は、サーバサイドの Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※)  CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-2625、CVE-2015-2659、

	<p>CVE-2015-2808、CVE-2015-4000、CVE-2015-4748</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアントサイドにて以下の機能をご利用の場合、下記15点の脆弱性が影響します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- deTrade2 クライアント画面の送受信アプレット</li> <li>- ACMS 運用画面の JOB 定義アプレット</li> </ul> </li> </ul> <p>Oracle Java をご利用のお客様は、クライアントサイドの Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※)</p> <p>CVE-2015-2590、CVE-2015-2596、CVE-2015-2619、CVE-2015-2621、  CVE-2015-2628、CVE-2015-2632、CVE-2015-2637、CVE-2015-2638、  CVE-2015-2664、CVE-2015-4729、CVE-2015-4731、CVE-2015-4732、  CVE-2015-4733、CVE-2015-4736、CVE-2015-4760</p> <p>&lt;HDC-EDI Manager &gt;  サーバサイドに下記6点の脆弱性が影響します。  Oracle Java をご利用のお客様は、サーバサイドの Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※)  HDC-EDI Manager Ver. 2.5.2 で Java8 をご利用のお客様は、制限事項があるため、併せて別資料「<a href="#">HDC-EDI Manager で利用可能な Java の制限について</a>」をご参照ください。</p> <p>CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-2659、CVE-2015-2808、  CVE-2015-4000、CVE-2015-4748</p>
iDIVO	<p>下記3点の脆弱性が影響します。</p> <p>&lt;Windows 版&gt;  Oracle Java をご利用のお客様は、Java 実行環境のバージョンに対する、最新 update を適用してください。(※)</p> <p>&lt;Linux 版&gt;  2015年9月リリース予定の iDIVO Ver. 1.5.3 にて対応します。Ver. 1.5.3 へリビジョンアップを行ってください。</p> <p>CVE-2015-2601、CVE-2015-2613、CVE-2015-4749</p>
SIGNALert	<p>影響ありません。Java を使用していません。</p>

※本脆弱性に対応した Oracle Java の update は以下となります。

Java SE JDK and JRE 8 Update 51

Java SE JDK and JRE 7 Update 85

Java SE JDK and JRE 6 Update 101

### 3. 今後の対応

調査状況に進展があり次第、情報を更新いたします。

**【改訂履歴】**

2015年7月23日	初版作成
2015年8月5日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 下記製品の調査状況を更新しました。 HULFT-WebFT HULFT-WebConnect</li><li>・ 本脆弱性に対応した Oracle Java の update を記載しました。</li></ul>
2015年8月25日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 下記製品の調査状況を更新しました。 HDC-EDI Suite iDIVO</li></ul>

以上